

第4学年 国語科学習指導案

に組 男子18名 女子20名 計38名
指 導 者 石 川 雅 仁

1 単 元 読んで、自分の考えをまとめよう

(教材「大きな力を出す」「動いて、考えて、また動く」光村4年上)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに第3学年「読んで、かんそうをもとう」の学習で、文章全体の構成「はじめ」「中」「おわり」を把握し、段落の内容をとらえながら、内容の大体を読み取る能力を身に付けてきている。また、「せつめいのしかたを考えよう」の学習で、中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係を考えながら読もうとする態度も身に付けてきている。さらに、文章の構成を考えながら読み物を読んだり、自分で意見文や説明文を書いて考えを伝えたりしたいという願いをもっている。

そこで本単元では、筆者の考えを読み取るために、要点から段落相互の関係をとらえる能力や筆者の考えに対して自分の考えを伝えようとする態度を身に付けさせたいと考え、本単元「読んで、自分の考えをまとめよう」(教材「大きな力を出す」「動いて、考えて、また動く」)を設定した。

この学習は、段落相互の関係を考え、文章全体における段落の役割について考えたり、説明の工夫について考えて説明する文章を書いて相手に分かりやすく伝えようとしたりする「説明のしかたについて考えよう」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「大きな力を出す」「動いて、考えて、また動く」は、筆者の経験を基に、大きな力を出す方法や考えることと動くことを繰り返すことの大切さについて、順序立てて分かりやすく述べている説明文である。子どもたちにとって身近で、興味をもっている身体を題材として扱っている両教材は、自分の知識や経験を根拠として考えたことを挙げさせやすくこの期の子どもたちに適した教材である。また、両教材共に、「はじめ」「中」「おわり」の三つの意味段落で構成された双括型の説明的文章であり、指示語や接続語、文末表現などを手掛かりとして文章の構成をつかみやすくなっている。さらに、「中」の部分が「事実」と「説明」により構成されており、自分の考えを分かりやすく伝えるために効果的な説明の仕方を学ぶのにも適した教材と言える。

そこで本単元では、筆者の考えに対する自分の考えを伝えることを読みの目的とし、教材「大きな力を出す」で双括型の説明的文章の構成を理解し、さらに、教材「動いて、考えて、また動く」で、筆者が考えをどのように説明しているのかということを読み解き明かしていく。その際、内容のつながりが分かる言葉や接続語、指示語の役割、文末表現などに気を付けながら、要点をとらえさせる活動を通して、段落相互の関係を把握させることが大切である。

具体的には、まず、説明的文章について解説するパンフレットのモデルを提示し、筆者の考えに対して自分の考えをもって読むことに興味をもたせる。そして、単元の終末で、つくったパンフレットを基に互いの考えを交流することを伝え、学習への意欲付けを図る。また、文章の構成をとらえさせるために、短い教材である「大きな力を出す」の読み取りをさせる。

次に、教材「動いて、考えて、また動く」を、「大きな力を出す」で学習したことを基に、段落相互の関係を読み取っていく。繰り返し用いられている言葉から要点をとらえさせたり、接続語、文末表現に着目させて、文章の構成を理解させたりする。また、文章の構成から、筆者の考えが分かることに気付かせる。

さらに終末では、作成したパンフレットを読み合う活動の中で、文章の構成をとらえることで筆者の考えをとらえやすくなることについて今回の学習経験をもって理解させる。

このような学習を通して得られる能力や態度は、文章の構成から筆者の考えを読むことができるようになるだけでなく、自分の考えを分かりやすく伝えようとする態度へと結びつくものである。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習や本教材に対して、どのような興味や関心をもっているかを調査した結果は、次のとおりである。(数字は、人数を表す)

①「動いて、考えて、また動く」の初発の感想	
<ul style="list-style-type: none"> ・走り方のコツがよく分かった。(19) ・このような走り方で自分も走りたい(5) ・要旨の理解(6) ・筆者の探求心や努力がすごい。(9) ・「うでで走る」ということが不思議だった(2) 	
②「大きな力を出す」の文章構造の理解	③「動いて、考えて、また動く」の文章構造の理解
<ul style="list-style-type: none"> ◎理解している(9) <ul style="list-style-type: none"> ・事実と説明の関係に気付いている。 ・双括型の文章に気付いている。 ○「はじめ」「中」「おわり」を理解している(20) <ul style="list-style-type: none"> ・「はじめ」と「おわり」の内容を理解している。 ▲理解が不十分(9) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎理解している(2) <ul style="list-style-type: none"> ・事実と説明の関係に気付いている。 ・双括型の文章に気付いている。 ○「はじめ」「中」「おわり」を理解している(4) <ul style="list-style-type: none"> ・「はじめ」と「おわり」の内容を理解している。 ▲理解が不十分(3 2)
④筆者の考えを読み取り、自分の考えを伝える文章を書くことへの興味	
書きたい(29)	書きたくない(9)
<ul style="list-style-type: none"> 【理由】・自分の考えを伝えたい(14) <ul style="list-style-type: none"> ・以前説明文を書いたときに楽しかった(7) ・書くことが好き(6) ・調べるのが好き(5) 	<ul style="list-style-type: none"> 【理由】・書き方が分からない(5) <ul style="list-style-type: none"> ・書くことが好きでない(2) ・書くことが苦手(2)

子どもたちは、教材文の内容に興味・関心をもっている。しかし、速く走るための方法に目が向いている子どもが多く、筆者の考えについて感想をもった子どもは少ない。また、文章の内容面に目を向ける子どもがほとんどであり、段落構成の把握等の形式面に目が向いていない。これは、これまで、形式面に着目した読み取りの経験が少ないためであると考えられる。(①)「大きな力を出す」の段落構成の把握については、多くの子どもが「はじめ」「中」「おわり」の文章構成を理解している。(②)しかし、「動いて、考えて、また動く」では、ほとんどの子どもが把握することができなかつた。これは、文章が長くなることで、文章の内容や接続語等の言葉から、全体の構成を考えた読みができていない子どもが多いことが考えられる(③)。

また、これまでの学習経験から、書くことで伝えられる楽しさ、調べるおもしろさを感じており、読み取った筆者の考えや自分の考えを伝える文章を書きたいと答えた子どもが多い。一方で、文章の書き方が分からず、書くことに抵抗がある子どももいる。(④)

(4) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、子どもたちが文章の構成をとらえ、筆者の考えについての自分の考えをもって伝えるときに活用できるように、学習内容の設定や指導方法を次のように工夫することが大切である。なお、その際、子どもたち同士の話し合いの場面を積極的に設定し、伝え合う過程で自分の考えを深められるようにする。

ア 筆者の考えを読み取り、自分の考えをもって伝えることへの興味・関心を高めるために、導入段階で文章の構成を読み解くためのモデルを提示し、自分の考えを伝える楽しさを感じさせる。また、単元を貫く言語活動を、文章を読んで自分の考えをまとめて互いに交流することとし、文章を解説するためのパンフレットづくりを行うことで、目的意識をもって学習に取り組めるようにする。

イ 文章の構成を把握する技能を高めるために、最初に「大きな力を出す」で段落相互の関係について読み解き、接続語や指示語、文末表現などを手掛かりにして文章の構成を把握することに気付かせる。その後、学習したことを生かして「動いて、考えて、また動く」を読ませることで、段落の構成を把握することが、筆者の考えを読み解く際に有効であることに気付かせる。

ウ 自分の読み深め方を振り返らせるために、自作パンフレットを友達同士で交流させ、自分の学習の成果に気付かせたり、本単元の学習が今後の他教科等の学習や日常生活で生かさせることを話し合わせることで、学習の有用感や学ぶ喜びを味わわせたりする。

3 目 標

- (1) 筆者の考えを読み取るために、事実と説明の関係をとらえて、段落相互の関係を考えようとする
ことができる。
- (2) 文章を読んで考えたことを発表し合い、友達のと考えと比較して話し合い、自分の考えを深めるこ
とに生かすことができる。
- (3) 要点や説明の仕方の工夫に注意しながら読み、必要に応じて引用したり要約したりし、筆者の考
えに対する自分の考えを伝えることができる。

4 指導計画 (全 12 時間)

過程	思いを連続・発展 させる心の高まり	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす①	<p>筆者の考えを述べた文章について解説するパンフレットをつくりたいな。</p> <p>筆者の考えに対して自分の考えをもちながら読みたいな。</p> <p>文章の構成をはっきりさせて読むと、筆者の考えが分かりやすいな。</p>	<p>1 内容への興味・喚起と学習目標の設定 「体のすごさを発表しよう。」 ・体のすごさ、不思議さの発表 ・教材の音読 ・初発の感想 ・単元の目標設定</p> <p>筆者の考えをのべた文章を読んで、自分の考えをもち、友達と伝え合おう。</p> <p>2～4 「大きな力を出す」の読み取り ・要点 ・文章の構成 ・事実と説明 ・伝えるための工夫 ・筆者の考えに対する自分の考えの交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元や教材への興味・関心を高めさせるために、日頃感じている体の不思議について発表させたり、教材文を解説したパンフレットのモデルを示したりする。 ○ 各段落の要点や文章の構成について考えさせるために、「大きな力を出す」の段落の並び替えをさせる。 ○ 文章の構成をとらえさせるために、2つの説明文を比較させる。
しらべる・ふかめる⑦	<p>「大きな力を出す」と同じような構成だと、筆者の考えが分かりやすいな。</p> <p>やっぱり、3つの意味段落できていて、「中」の段落には事実と説明があるのだな。</p> <p>パンフレットを作りながら、筆者の考えの読み取り方が分かったぞ。</p>	<p>5～10 「動いて、考えて、また動く」の読み取り</p> <p>5 「どんなことが、どのように書かれているのだろうか。」(本時) ・各段落の要点 ・大まかな文章の構成</p> <p>6・7 『中』の段落は、どのようにつながっているのだろうか。」 ・2～6段落の要点の整理 ・事実と説明</p> <p>8 「筆者はどのように説明の仕方を工夫しているのだろうか。」 ・7段落の役割 ・双括型の書き方</p> <p>9・10 「パンフレットをまとめよう。」 ・文章の構成、工夫の理解 ・筆者の考えに対する自分の考え</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 段落相互の関係をとらえさせるために、各段落の要点をまとめさせたり、指示語や接続語などに目を向けさせたりする。 ○ 読者に伝えるための筆者の意図を理解させるために、事実と説明で書かれていることに気付かせる。 ○ 筆者の考えに対する自分なりの考えをまとめやすくさせたり、説明の仕方の工夫に気付かせたりするために、分かったことをパンフレットにまとめさせる。 ○ 学習したことを振り返らせ、自分の学習の成果に気付かせるために、まとめたパンフレットや筆者の考えに対する自分の考えについて交流させる。
ふりかえる・いかす④	<p>筆者の考えに対する自分の考えが伝わりやすいパンフレットが書けたぞ。</p> <p>いろいろな学習や日常生活で、学んだことを生かしていきたいな。</p>	<p>11～12 筆者の考えに対する自分の考えの交流、学習の振り返り・評価 ・筆者の考えに対する自分の考えの交流 ・振り返り</p> <p>筆者の考えをのべた文章を読んで、自分の考えをもって、友達と伝え合うことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本単元の学習を価値付け、今後生かすために、どのような場面で活用できるか話し合わせる。

5 本 時 (5 / 12)

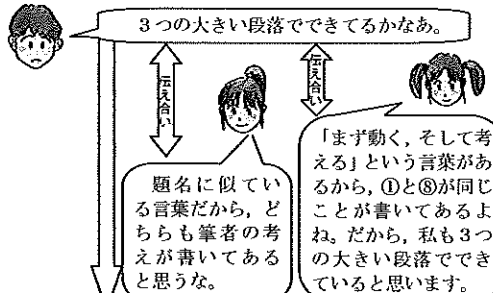
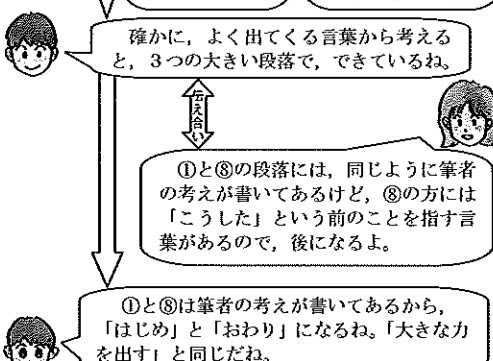
(1) 目 標

接続語や指示語、文末表現などに着目し、大まかな文章構成や内容の大体をとらえることができる。

(2) 本時の展開に当たって

段落相互の関係を考えながら読むという目的意識をもたせるために、教材「大きな力を出す」でまとめたパンフレットを基に表現や内容に着目させて話し合わせる。

(3) 実際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす	1 前時までの学習を振り返り、本時の学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「動いて、考えて、また動く」には、どんなことについて、どのように書かれているのだろうか。</div>	(分) ↑ 5	○ 課題意識をもたせるために、教材「大きな力を出す」で行ったパンフレットづくりを振り返らせ、パンフレットづくりを通して読みを深めていくことを確認する。 ○ 見通しをもって主体的に学習させるために、一人で考えた後、互いに自分の考えを伝え合う活動を通して考えるという学習の進め方を確認する。
	2 学習の進め方を確かめる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">○ 自分で考える。 ○ 友達と伝え合う。 ○ みんなで話し合う。</div>		
しらべる	3 文章の組み立てを、自分で考える。 4 文章の組み立てを、話し合う。 	1 5 ↑ 1 5	④ 文章の組み立てが考えられない子どもには、教材「大きな力を出す」での学習を想起させ、接続語等の表現やキーワードを基に段落のつながりについて考えさせる。 ○ 3つの意味段落で構成された双括型の説明文であることに気付かせるために、①と⑧段落の内容に着目させ、順序は反対でもよいか、教材「大きな力を出す」での学習を振り返りながら話し合わせる。
ふかめる		1 5	
ふりかえる・いかす	5 本時のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「まず動く、そして考える」ことの大切さについて、はじめ—中—終わりの組み立てで書かれている。</div>	1 0	○ 各段落のつながりを意識させるために、接続語や文末表現などの表現の仕方に着目している発表を価値付ける。 ○ 筆者に対する自分の考えをもたせるために、文章の構成をはっきりさせて詳しく読むことが必要であることに気付かせ、分かったこととこれから学習することをはっきりさせる。
	6 本時の学習を振り返り、次時の学習について話し合う。		○ 学習したことを振り返らせるために、記述式で分かったことや感想を書かせる。